

冬季休業後集会

旧本館を設計した駒杵勤治氏について

平成29年1月10日

横島義昭校長は本校の宝として、国指定の重要文化財にもなっている棟札(むなふだ)を生徒に披露し、その意味について説明しました。生徒にとってはもちろんのこと、職員でも初めて目にする人もいる、たいへん貴重な機会となりました。

校長講話

この棟札は、本校の旧本館を設計したのが西洋人ではなく、日本人だということが判明するきっかけになったもの。当時27歳だった駒杵 勤治(こまきね きんじ)氏は、東京帝国大学の建築科を出て、西洋建築を設計したいという夢をかなえるため茨城の地に来て、夢を実現した。ただしその建築は今、私たちの宝となっているが、設計図が見つかっていないことや、駒杵勤治氏が茨城を2年足らずで去ったことなど、まだ分かっていないことが多い。

生徒諸君の中から、そのような謎を追究する人が出てきてもおもしろい。

さらに校長は「本校の本当の宝は君たちだ。駒杵勤治氏のように、ぜひ大きな志を抱いてほしい」と激励した。



アカンサス咲く旧本館



本校旧本館の棟札を掲げる横島義昭校長